

ふれあいの森より広がる地域との絆 一段戸国有林 漁民の^{もり}森林づくり活動ー

愛知森林管理事務所 主幹（指導普及担当）○鈴木 ^{すずき} 永江 ^{ひさえ}
流域管理調整官 稲垣 ^{いながき} まさき ^{まさき} 正紀

要旨

協定締結による国民参加の森づくりを活用し、普段森林との関わりが薄い漁業関係者による森づくりが10年に渡り行われています。この間の活動の経緯と、継続的な国民参加の森づくりについて必要なことは何かを考えました。

1 はじめに

愛知森林管理事務所の管轄する国有林は都市部に近いことから、都市住民や企業等から森づくりへの参加要望が数多く寄せられております。単発的な森林教室や体験林業を始め、中・長期的に継続した森づくりが行いたいという要望にも応えるよう、各種協定や法人の森契約を推進し、国民の皆様へ森林への関心を深めていただけるよう努めています。

協定締結による国民参加の森づくりは、平成24年1月現在、NPO法人や市民団体、市町村と協定した「ふれあいの森」が6件、小学校と協定した「遊々の森」が2件、「多様な活動の森」協定が1件と合計9件を数え、各団体が目標とする森づくりの実現や、自然に親しむため自主的な活動を推進しています。



図1 愛知森林管理事務所 管内図

表1 愛知所の各種協定状況

協定締結による国民参加の森づくり					
	名称	協定相手方	国有林	面積	主な活動
ふれあいの森	名古屋シティ・フォレスト倶楽部の森	NPO法人 名古屋シティ・フォレスト倶楽部	段戸	2.63ha	ヒノキ林の育成
	定光寺NCFの森		瀬戸	24.78ha	ヒノキ林の育成・歩道整備
	中日森友隊の森	中日森友隊	段戸	0.96ha	ヒノキ林の育成
	犬山ふれあいの森	犬山市	犬山	36.07ha	ヒノキ林の育成・歩道整備
	穂の国みんなの森	NPO法人	段戸	2.39ha	広葉樹を中心とした森林の育成
遊々の森	みんなの森	犬山市立 今井小学校	八曾	36.07ha	自然観察
	神明の森	瀬戸市立 掛川小学校	瀬戸	2.10ha	自然観察
	多米の里山づくり	多米の里山づくりを楽しむ会	豊橋	7.68ha	ヒノキ林の下刈、歩道整備
平成24年 1月現在					

様々な活動の中で、段戸国有林にある「穂の国みんなの森」では、普段山とは関わりの薄い漁業関係者が10年に渡り森づくりをし、次世代の漁業を担う人たちにも森林の重要性を伝えたいと活動の輪を拡げています。

この「段戸国有林 漁民の^{もり}森林づくり活動」を振り返り、国民参加の森づくりを継続的に推進するため必要なことは何かを考えます。

2 段戸国有林 漁民の森林^{もり}づくり活動

(1) NP0法人 穂の国森づくりの会

ヒノキ人工林が多い当所管内において、「NP0法人穂の国森づくりの会」と協定している「ふれあいの森」は他の協定による活動とは少し内容が異り、広葉樹を中心とした森づくりを行っています。

「NP0法人穂の国森づくりの会」（以下「穂の国」と略す）は、愛知県東三河の沿岸部豊橋市に事務所があり、豊川^{とよがわ}流域の森づくり活動を通して、循環型社会の実現を目指しています。

個人や団体・企業、東三河8市町村の賛助会員で構成され、県有林や個人所有林での間伐や、学校や一般の方への森林に関する知識の普及啓発活動等を積極的に行っており、当所が行っている普及啓発活動にも様々な面で協働していただいている団体です。



写真1 木材搬出研修をする穂の国会員

(2) 穂の国みんなの森

「穂の国みんなの森」は、愛知県設楽町にある段戸国有林のほぼ中心部に位置するヒノキ人工林の伐採跡地です。豊川^{とよがわ}の源流部に位置し、尾根を境に裏谷原生林と隣接していることから、裏谷原生林をモデルとした森づくりを行いたいとの要望を受け、平成13年にふれあいの森協定を締結しました。

その後は、下流域にある豊橋市の小学生、地元の企業や、他の森林ボランティア団体と連携して、この森に裏谷原生林と同じ広葉樹を植栽していき、「穂の国みんなの森」の名前のとおり、みんなで森づくりを行ってきました。



図2 ふれあいの森位置図

当所も、協定締結当初から、植樹指導や道具の貸し出しなど積極的に活動の支援を行ってきました。

活動を支援していく中で、この活動を豊川^{とよがわ}流域の市民のみならず、三河湾で働く漁業関係者にも参加してもらえれば、上下流域を包括した幅広い活動になるのではないかと考えました。

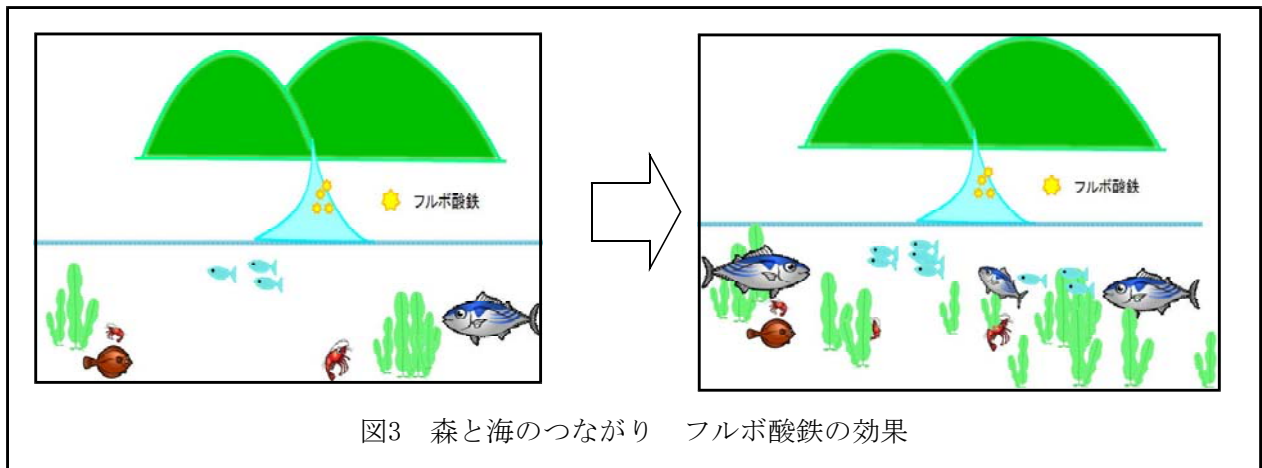


写真2 植樹指導する愛知所職員

(3) 森と海のつながり

森林から海へ注ぐ水には様々な栄養素が含まれており、その中にフルボ酸鉄というものがあります。フルボ酸鉄は植物の枝や落ち葉から生成され、海の植物プランクトンの栄養源となり、動物プランクトンから大型魚へと食物連鎖し、豊かな漁場資源を育てていると言われています。

そのため、現在では、全国各地で漁業関係者が森を育てる活動に参画しています。愛知県でも平成22年度現在、私どもの活動を含めて2件実施されている状況にありますが、当時は1件も実施されていませんでした。



(4) 漁業関係者への働きかけ

そこで、豊川^{とよがわ}の河口域の蒲郡市にある三谷漁業協同組合を尋ねて漁業関係者への森づくりへの参加を呼びかけたところ、

「豊かな海を守るためには、上流の森林が大切と言うことは知っています。何かしたいと考えていたので是非参加したいです。」

と快諾してくださり、蒲郡市の若手漁業関係者が作る「蒲郡市漁協青年部連絡協議会」のメンバーが「穂の国みんなの森」への植樹に参加することになりました。

(5) 漁民の森林づくり

平成14年10月に蒲郡市漁協青年部連絡協議会（以下漁青連と略す。）のメンバーは原生林と隣接し、水源地に近い尾根にブナを植栽しました。その後、穂の国と当所職員の案内で原生林を歩いて森の様々な働きや、森づくりについて耳を傾けました。

漁青連のメンバーは、

「何となく知っていた海と森とのつながりを、森を見ながら話してもらったので、良く理解できた。」

「自分が植えた苗木を、今後も育てていきたい。」

「今日植えた苗木が大きくなるには、長い年月がかかる。次世代の漁業や水産を担う者にも海と山とのつながりを知ってもらうために継続した活動としてもらえないだろうか。」

と、森づくりに意欲をもって、継続的に取り組んでいく事になりました。



写真3 原生林を歩く漁青連のメンバー

(6)連携の広がり

ア 県・市町村との連携

「蒲郡市漁協青年部連絡協議会が豊川上流域の森づくりを行う。」という情報は、愛知県東三河農林水産事務所水産課にも入っており、作業当日、漁青連のメンバーとともに参加してくれました。メンバーが熱心に活動する姿をみて、県の水産課もこの活動と一緒に支えていきたいと申し出てくれました。また、平成16年には愛知県東三河農林水産事務所林務課が、さらに翌年には蒲郡市も参加し、一緒に連携していくことになりました。

そこで効率的な運営や問題点の話し合いを行うため、活動の実施前後に全ての団体が集まり、打合せ会議を行う事としました。

会議では、実施状況の反省をもとに、いろいろな視点からの意見、情報を持ち寄り、次の活動内容の改善を行っています。

イ 次世代との連携

また、次世代の水産を担う人たちにも参加してほしいという願いから、愛知県唯一の水産高校、県立三谷水産高等学校に、活動への参加を働きかけました。呼びかけに応じた三谷水産高等学校は平成15年に下刈り作業に参加し、平成19年度からは毎年活動へ参加するようになりました。



写真4 平成15年三谷水産高等学校の参加

また学校からの要請により、愛知県東三河農林水産事務所林務課と穂の国森づくりの会、当所が、県内の森林・林業の現状や、森と海とのつながり、除伐の意義と作業の安全について講義を行い、森を整備することがなぜ海を豊にすることに繋がるのかを説明しています。

日頃、海洋資源について学んでいる学生達には、森や樹の話や林業用語は聞き慣れない言葉のようで戸惑うようにも見受けられます。

愛知県 東三河農林水産事務所 林務課	NPO法人 穂の国森づくりの会	愛知森林管理事務所
・愛知県の森林・林業の現状	・海と森とのつながり	・国有林について
・人工林と天然林の違い	・「穂の国みんなの森」について	・除伐と作業の安全

写真5 三谷水産高等学校での講義

(7)10年目を迎えて

今年度も漁青連のメンバーは早朝から漁に出た後にもかかわらず、穂の国みんなの森の中で熱心に除伐作業を行っていました。

植栽時は1m程度だった苗木は、今では4～5mまで成長し、自分の背丈を遥かに超え、10年の時の流れを感じることができます。参加者は時々作業の手を止め、自分が植えた木の生長を感慨深げに眺めていました。



写真6 漁青連の活動

漁青連顧問の三谷漁業協同組合の小林組合長は、「植えたブナの木も大きくなってきて10年の歳月を感じます。活動を継続したことにより、若い組合員にも森の大切さが伝わってきました。今後も森を守り豊かな海を育んで行きたい。」と話され、今後の活動の継続に意欲を持っています。

三谷水産高等学校の生徒は除伐作業や森林散策を行い、講義で聞いた作業や森林の働きを実際に体験しました。水産関係と全く異なる作業と環境に反応も様々でしたが、閉会式で学生の代表からは「木を切って森の中が明るくなったのが嬉しかった。大変だったけど大変貴重な体験ができた。」との感想がありました。

また、先生方からは、「体験を伴った勉強は理解しやすい。これからも継続して生徒達に体験させていきたい。」と、今後も積極的に活動していきたいと話しています。



写真7 三谷水産高等学校の活動



写真8 五感を使った自然観察

ふれあいの森の活動を推進することにより、普段は水産関係と関わりの薄い穂の国や当所にも、下流域に新たな絆ができました。

●段戸国有林 漁民の^{もり}森林づくり活動 10年の歩み



写真9 平成14年度 植栽当初



写真10 平成18年度 植栽から5年目

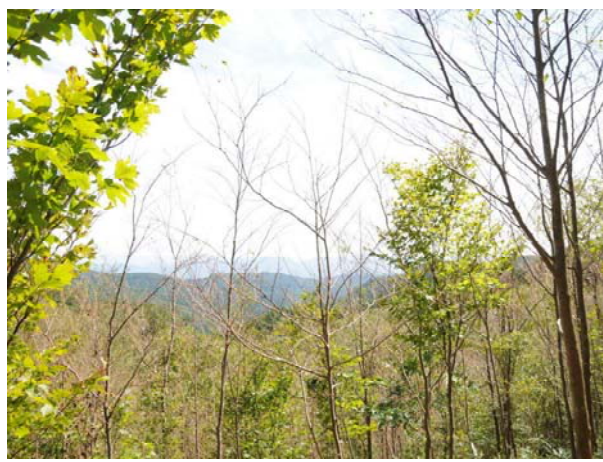


写真11 平成23年度 植栽から10年目

3 検証

段戸国有林「漁民の森林^{もり}づくり活動」について、10年間の活動状況を振り返ってみますと、国民参加の森づくりの継続的な実施やその支援について参考になる点が幾つかあると思います。

(1) 情報の収集と発信の創意工夫

1つは活動のきっかけとなる、様々な情報の収集と発信の創意工夫です。

段戸国有林 漁民の森林^{もり}づくり活動の場合、

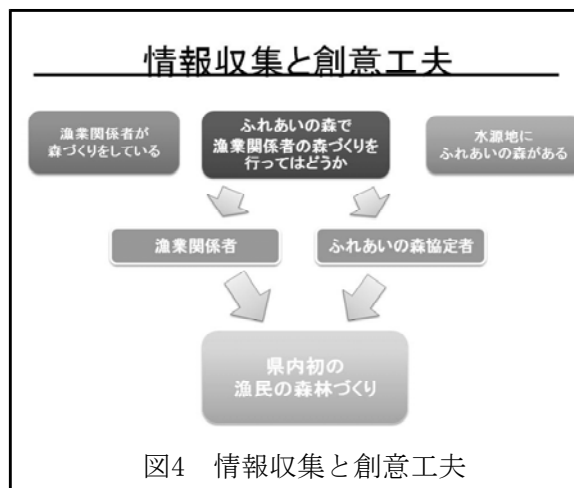
「他県では漁業関係者が森づくりをしている。」

という情報と、

「水源地にふれあいの森ができた。」

という状況とを鑑み、何か新しい取り組みができないかと考えて作り出された物が「ふれあいの森内で漁業関係者が活動してはどうか」という考えです。

それを発信したところ、流域全体での活動としたいという穂の国の要望と、豊かな海を守りたいという漁業関係者の要望が適合し、愛知県内初の漁業関係者による森づくり活動につながったと感じます。



(2) PDCAサイクルの実行

2つ目は活動を継続するための「PDCAサイクル」の実行です。

「PDCAサイクル」とは情報処理等でよく用いられる用語です。

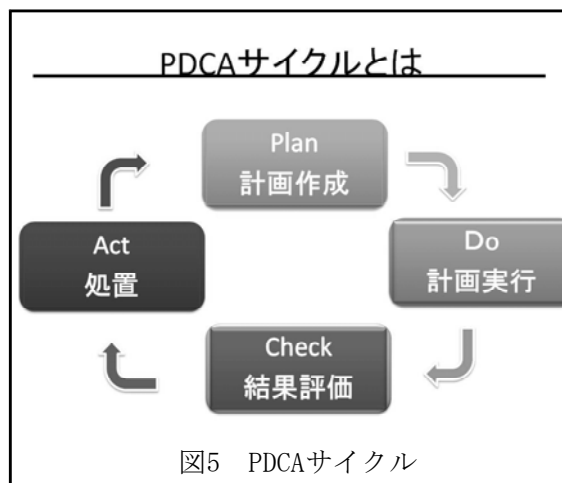
PはPlan -----計画作成

DはDo -----計画実行

CはCheck ----結果評価

AはAct -----処置

を表します。



物事は一回で理想的な状況に達成することは難しく、何度も失敗と見直しを繰り返しながら、少しずつ理想へと近付きます。

PDCAサイクルの実行は、業務改善に大いに役立つと考えます。

段戸国有林 漁民の森林^{もり}づくり活動では、活動の前後に全ての関連団体で打合せ会議を実施することにより、問題点や反省点を洗い出し、その解決のため各団体の持つ情報やアイデアを提供し、よりよい活動を目指しています。

一例として、三谷水産高等学校は平成16年～18年まで活動を休止しました。

その理由の1つに、移動費の問題がありました。

「活動に参加するにはどうしたらよいのか。」

を打合せ会議で話し合ったところ、各行政が持っている補助事業等の情報を得て活用することができ、平成19年度からの参加につながりました。

このようにPDCAサイクルを大小に関わらず継続的に行うことが、長期にわたる活動につながっていると考えます。

(3) 地域との絆

最後に、何より大切なことは地域との絆だと感じます。

段戸国有林 漁民の森林づくり活動は、漁青連が仲間内だけの活動としてしまうのではなく、活動の意義を多くの人に知ってもらい、地域の方々とともに活動しようと働きかけつつ実施してきました。

地域との絆、人と人とのつながりが困難を1つ1つ克服し、10年に及ぶ活動となり、今後も継続していくことに繋がった感じます。

おわりに

地域との絆は一朝一夕にできる物ではなく、小さな信頼を積み重ねて築き上げていく物だと感じます。愛知森林管理事務所としては、今後も国民の皆様から頂く様々な御要望を皆様と一緒に考えながら活動を支援していくとともに、「協定締結による国民参加の森づくり」による森林整備活動等の推進を始め、多彩な取り組みを通じ地域と絆を深めていきます。

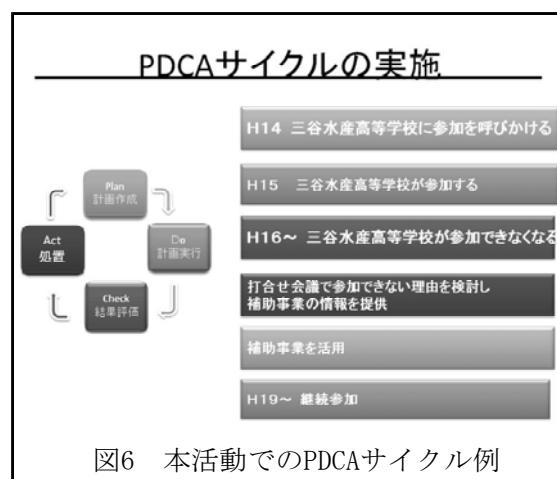


図6 本活動でのPDCAサイクル例



写真12 活動を終えて全員で記念写真